



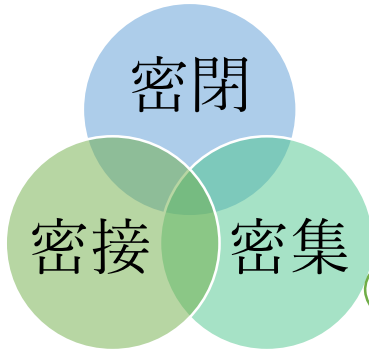
(縁・円・援)

兵庫えんだよい

このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

～距離の三密を避け、三つの取り組みを進めてみませんか？～

感染予防のために避ける三密



筋力低下

足腰弱ってきた…

その結果
こんなことも…

だれとも話してない…

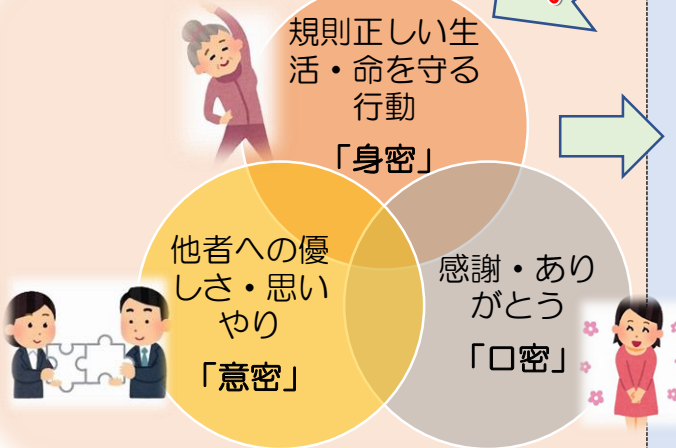
このように考えて
みませんか？

孤立

イライラ

腹立つ！

進めよう、三つの取り組み



たとえばこんなことがありました

しんみつ
身密

- 集落でラジオ体操を始めた。
- ケーブルTV等でなじみの体操を流している。
- 災害等に備えて、地域で避難のことを考えている。

くみつ
口密

- サロン対象者等に寄せ書きを持って訪問すると、「ありがとう」とメロンが届いた。
- 手作りマスクを届けると、想像以上の喜びにこっちが元気になった。
- 人の意見と違っても、いったんは受け入れる。

いみつ
意密

- 気になる人に電話・訪問をしている。
- 週一回の配食の調理ができなくなり、地域の民宿等が調理を担い、まちの活性化と生活支援を兼ねることができた。

「身密」「口密」「意密」はもともと、仏教のとても大切な教えだそうです。（身密：身体の働き・口密：言葉の働き・意密：心の働きがあります。）「身密」は規則正しい生活をする、「口密」は優しい言葉「ありがとう」をいっぱい言う、「意密」は優しい気持ち、他者への思いやりを持つことで早くに悟りを開くことができるというものです。こんな時だからこそ、本来の三密を生活や活動の中に生かしてみませんか。

情報提供コーナー

●全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）
「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク
感染防止のための対策を講じつつ、全国各地で創意工夫のなかから生まれた『新しいつながり方』を収集・提供し、WEBを活用した交流等の取り組みを紹介しています。
<https://www.t-net.online/>

【発行元】（令和2年6月1日発行）

〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号

兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部

TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297

E-Mail: chiiki-2@hyogo-wel.or.jp (担当：山下・永坂)

三つの“教え”の取り組み

からだ・行動

しんみつ 身密

【淡路市社協】
新しいあつまり方・つながり方として「プランターファーム方式」が始まりました。参加者はワンコイン（100円）を支払い、持ち帰ったプランターに毎日水やりをしてもらい、自然と外出や見守りが行われています。参加者は実がなる頃のコロナ終息を願い「収穫した野菜を持ち寄って食事をしよう」と夢を語り合いました。最近では、2か月間引きこもっていた高齢者が顔をくしゃくしゃにして「うれしい、みんなが寄ってくれる」と水やりをしています。「苗を育てることは、未来を生きること」と職員は言います。まちと職員に活気がもどりました。



ここがポイント つながり

野菜を育てることで、毎日水やりのために外に出る。自然な見守り、つながりにつながります。



こころ・考え

いみつ 意密

意密 + 身密

身密 + 口密

新たな共生の社会づくり

ことば・発言

くみつ 口密

【兵庫区社協】
緊急小口資金の貸し付けに殺到する人を見て職員はまちに出て、その日の食べ物にも困る人がいることを知り、企業から食料の提供を受けます。友愛訪問は、メッセージカードを添えて訪問を続けます。ボランティアセンターは、子育て世帯に自宅で作ってもらった紙の花を自宅と子育て広場に飾ります。ほっとかへんネットは、アンケートを行い、施設のマスク不足や、家族の不安などの問題に対応します。声にできない困りごとに向き合う職員は言います。

「これは、災害と同じです」

【三田市社協】
いきいき体操、茶話会等、週一回の集まりが自粛で中断。民生委員児童委員等が、直筆のお手紙に、マスク、あめ、家でできる体操方法を記したメモを添えて高齢者宅に投函。その夜、訪問先から「ありがとう。頑張らんとあかん」との電話が…。その声を聴いて活動者がさらに元気づけられました。

ここがポイント 思いやり

こんな時だからこそ、声をかける、即、行動する。なぜ？ そこに声を出せない人がいるから。



ありがとう



ありがとう



ありがとう

承認

「ありがとう」は最高の承認です。そして、言った方も言われた方も、かけられる魔法の言葉です。

ここがポイント

三密は、別々ではなく一体です。大切なのは、距離の三密を避けるとともに、もうひとつの「三密」を重ねていくことで、だれもが安心して住み続けられる地域に近づいていきます。これこそがコロナ禍に負けない、新たな共生の社会づくりだと思います。

笑顔のエピソード

引きこもりの方、就労Bに通っている方、学童の子どもたちが社協の花壇づくりを行っています。引きこもりの方が子どもたちに教え、作業の減った事業所の人の励みになり、子どもたちが水やりを担ってくれ、外での活動が増えた子どもたちの親も大喜びでした。（洲本市社協）



居場所のカフェに来ていた高齢者を「お誘い隊」が誘っていたが、来られなくなり、笑顔とコーヒーを届ける「お届け隊」を実施。高齢のKさんと障害のあるSさんが心から再会を喜んでいる、その笑顔が感動的でした。（西宮市社協）



【情報募集】

「兵庫えんだより」はみなさまからの聞き取り、アンケート等から作成しています。さらに、みなさまからの情報提供をお待ちしています。

【編集後記】今回お伝えしたことは、ある住職のお手紙に書いてありました。これまでのピクピクした気持ちがほっと和むようでした。両方の「三密」を意識し自然に行動できるようになりたいものです。